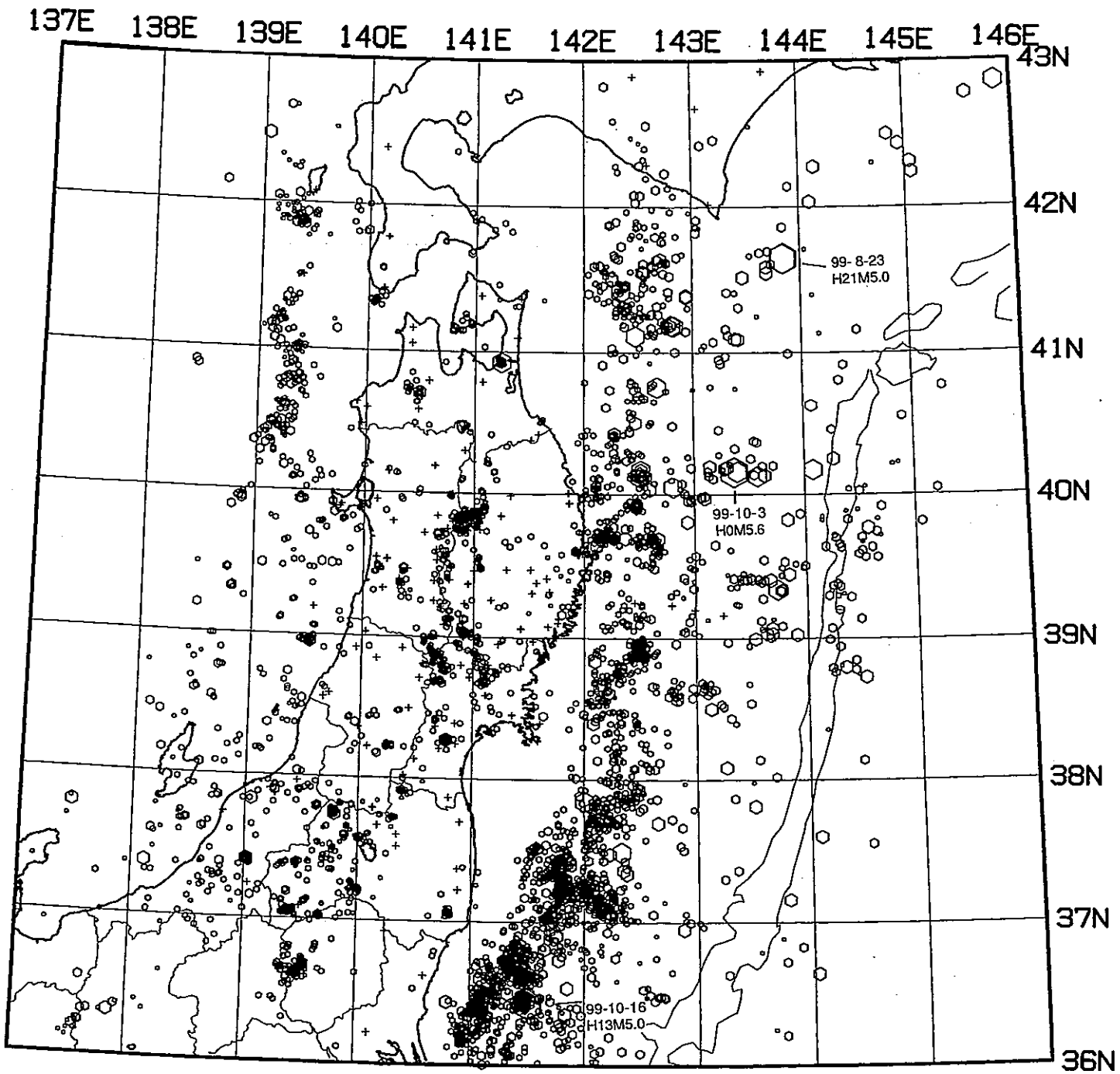


第135回

地震予知連絡会資料

1999年11月15日

東北大学理学部



- 0 - 40km
- 40 - 80km
- △ 80 - 120km
- × 120 - 160km
- * 160 - 800km

99/ 8/ 1 - 99/10/25
 h: 0 - 40km N= 4153

- ○ ○ ○ ○
- 1 [Mag] 5

Fig. 1. 東北地方の浅発微小地震の震央分布 (1999年8月~10月25日) .

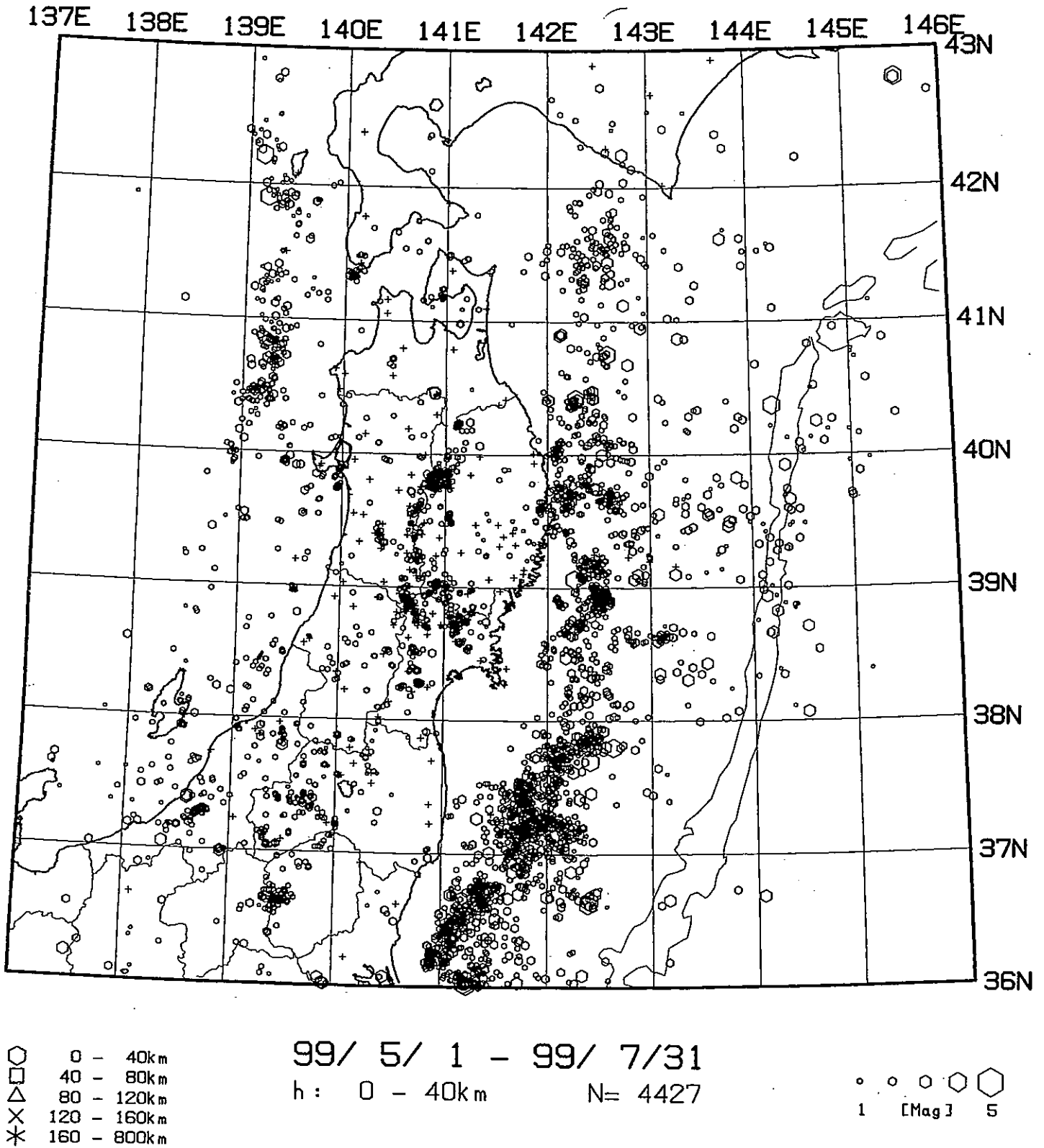


Fig. 2. 東北地方の浅発微小地震の震央分布 (1999年5月~7月) .

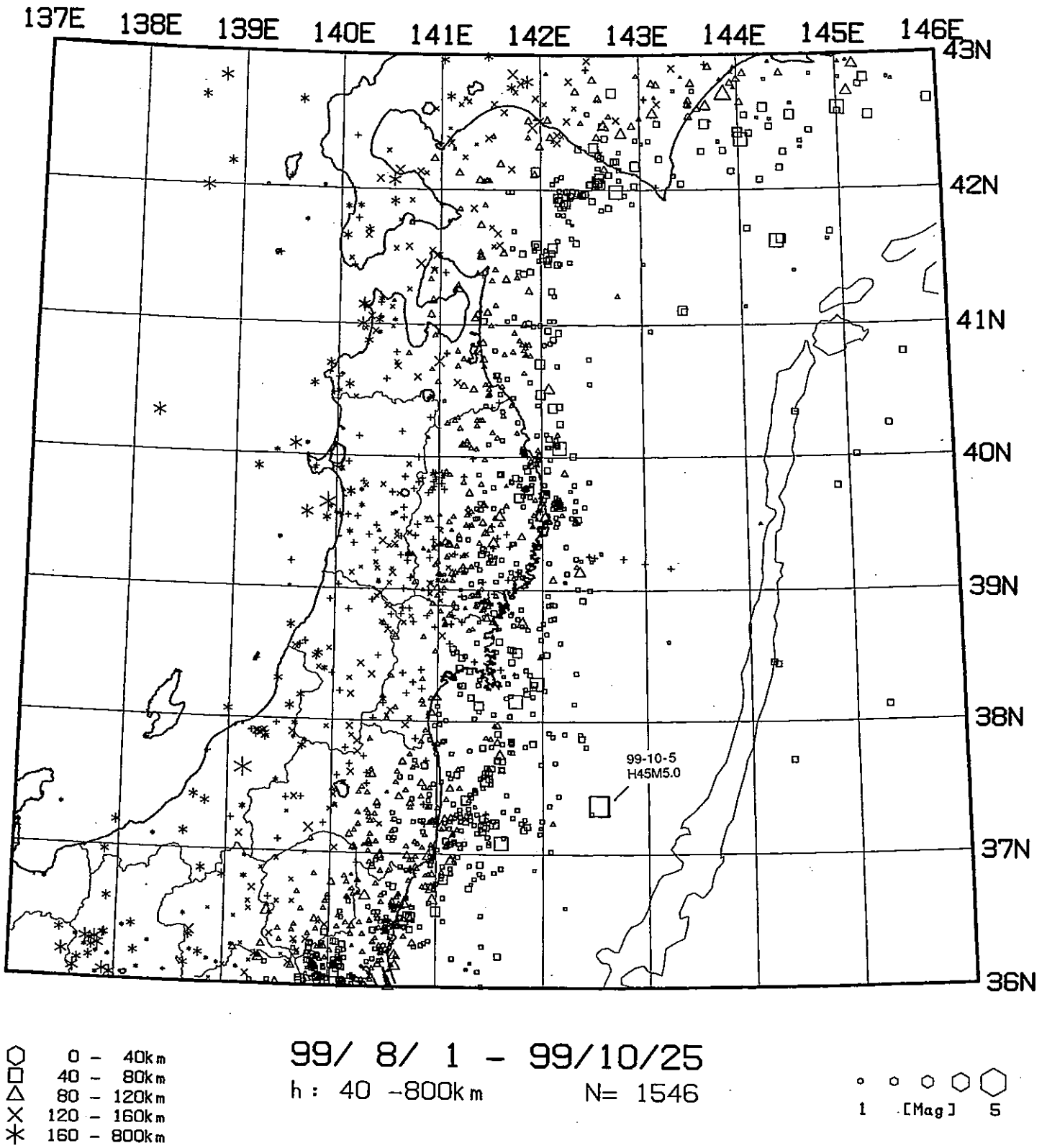


Fig. 3. 東北地方の $h \geq 40$ kmの微小地震の震央分布 (1999年8月~10月25日).

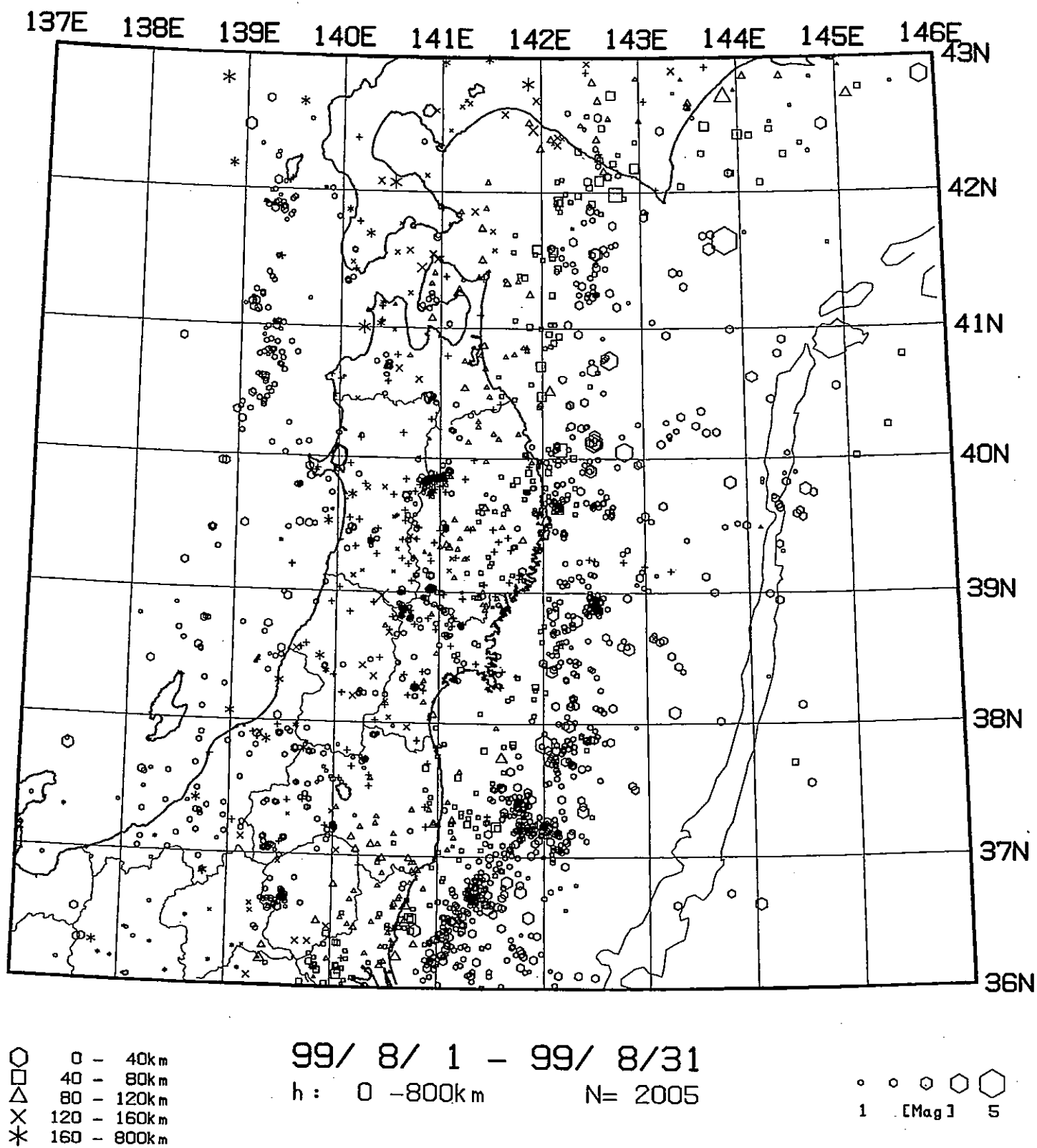


Fig. 4. 東北地方の微小地震の震央分布 (1999年8月) .

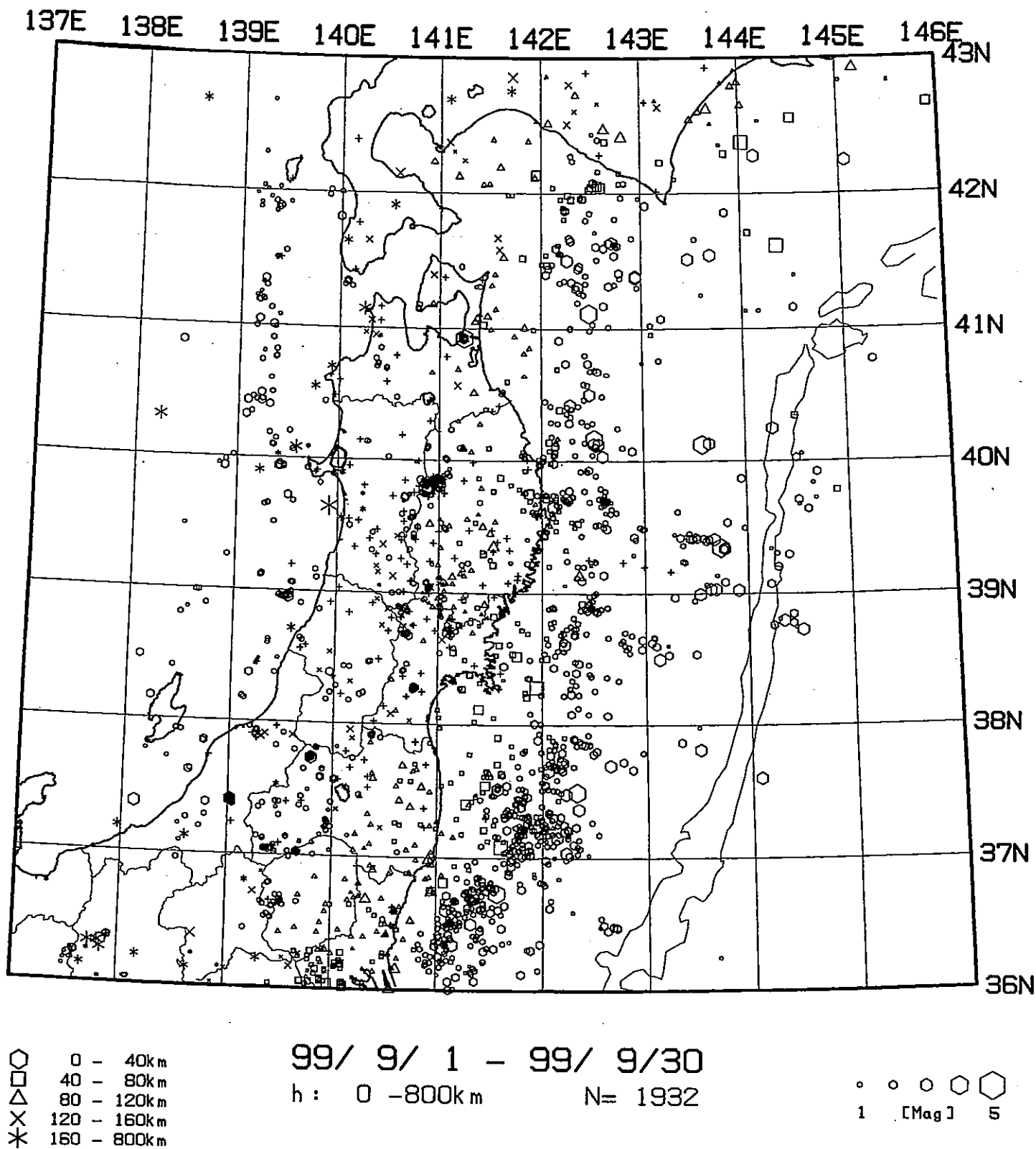
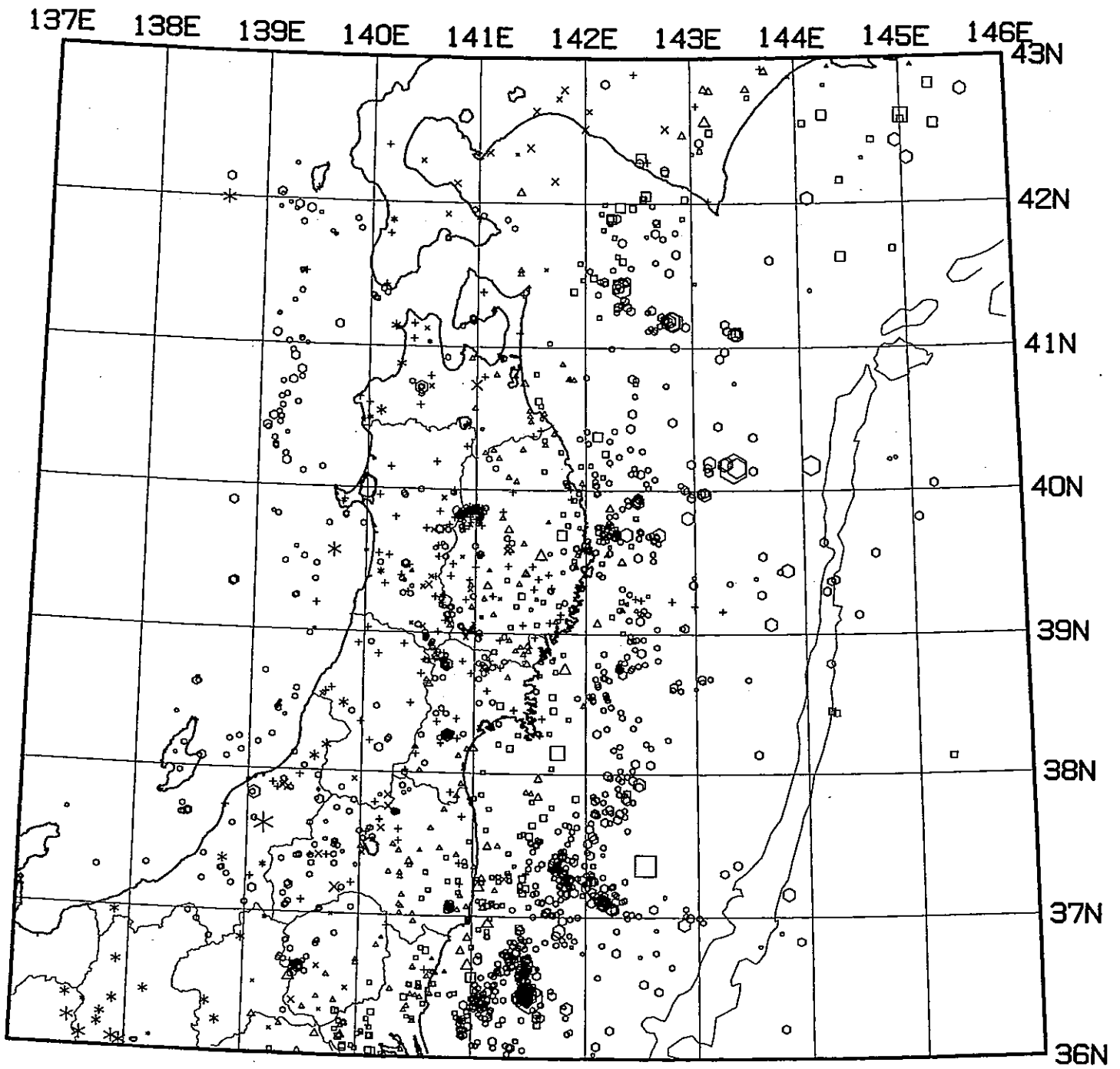


Fig. 5. 東北地方の微小地震の震央分布 (1999年9月) .



- 0 - 40km
- 40 - 80km
- △ 80 - 120km
- × 120 - 160km
- * 160 - 800km

99/10/ 1 - 99/10/25
 h: 0 - 800km N= 1762

- ○ ○ ○ ○
- 1 [Mag] 5

Fig. 6. 東北地方の微小地震の震央分布 (1999年10月1日~25日) .

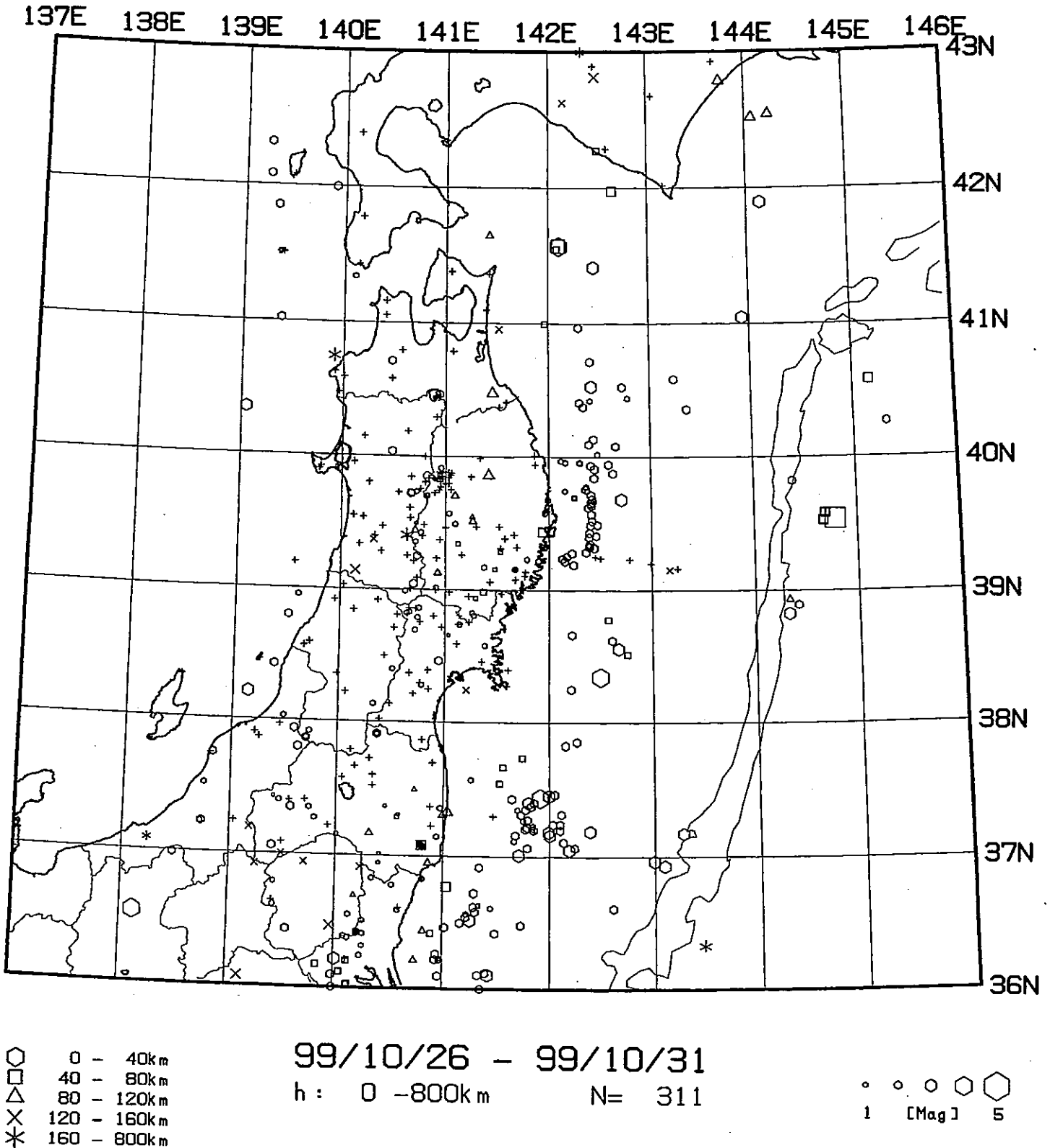


Fig. 7. 東北地方の微小地震の震央分布 (1999年10月26日~31日; 自動処理システムによる) .

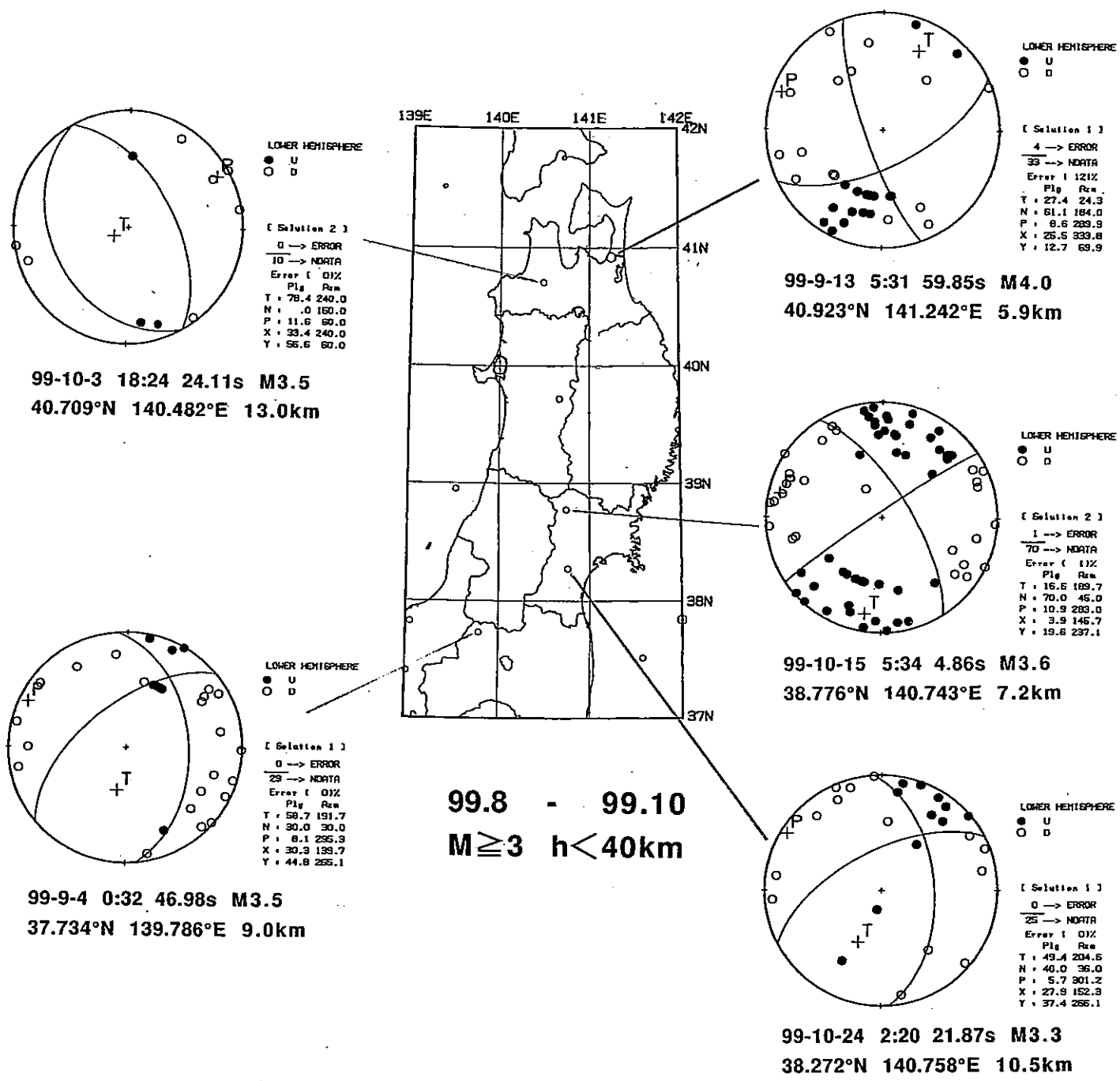


Fig.8. ルーチン処理データによる1999年8月～10月25日に東北地方の内陸に発生したM \geq 3の浅発地震の震央分布とメカニズム解(下半球等積投影)。●が押し, ○が引きを表す。

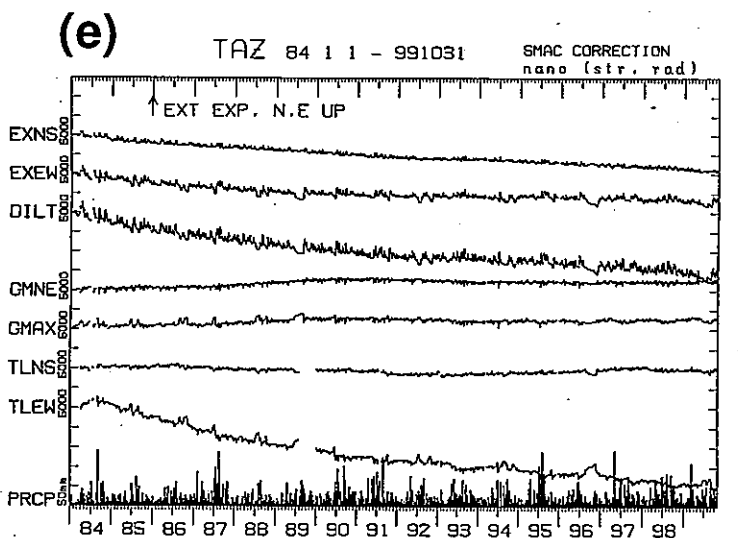
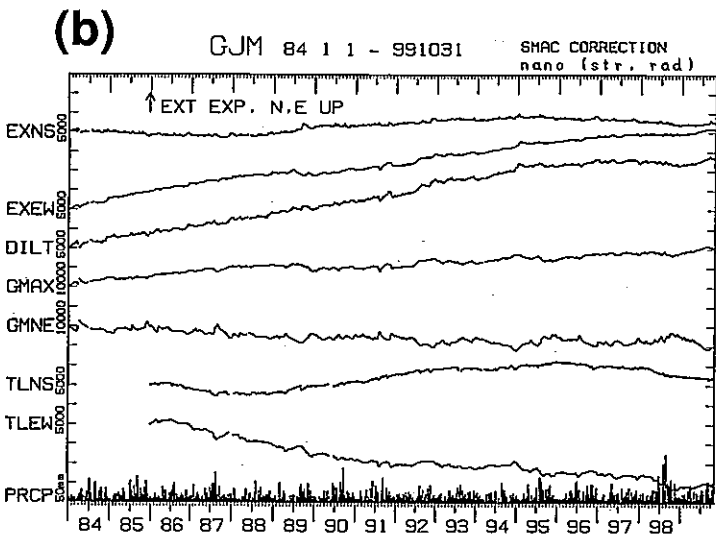
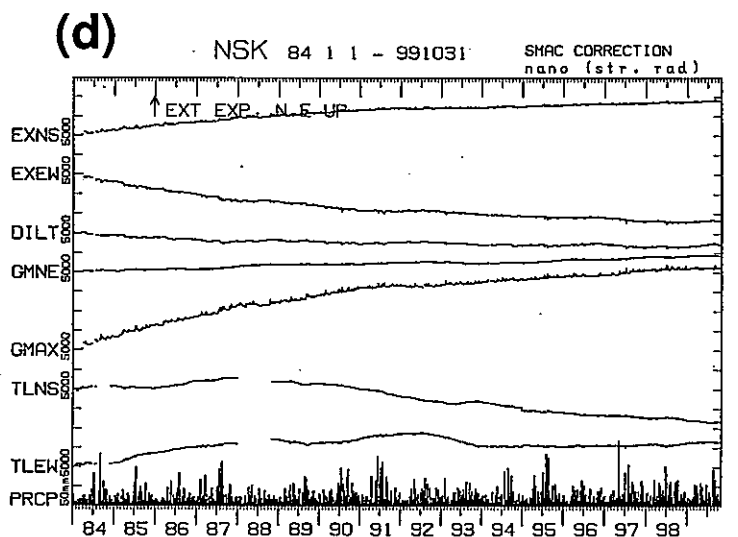
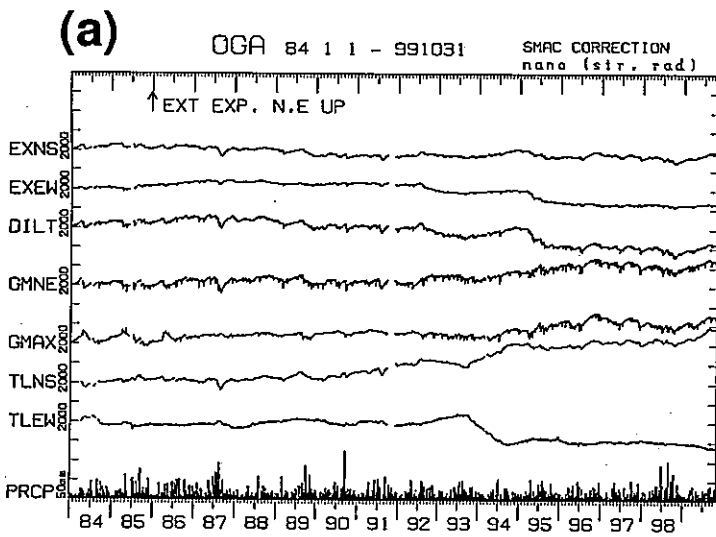
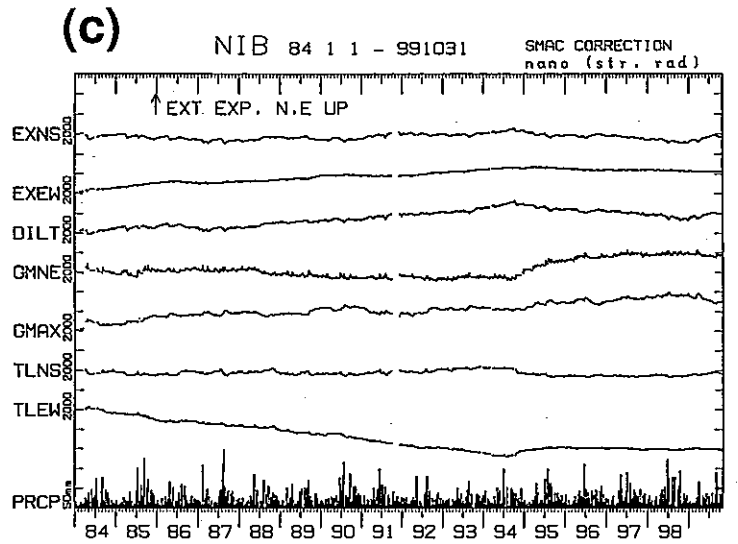
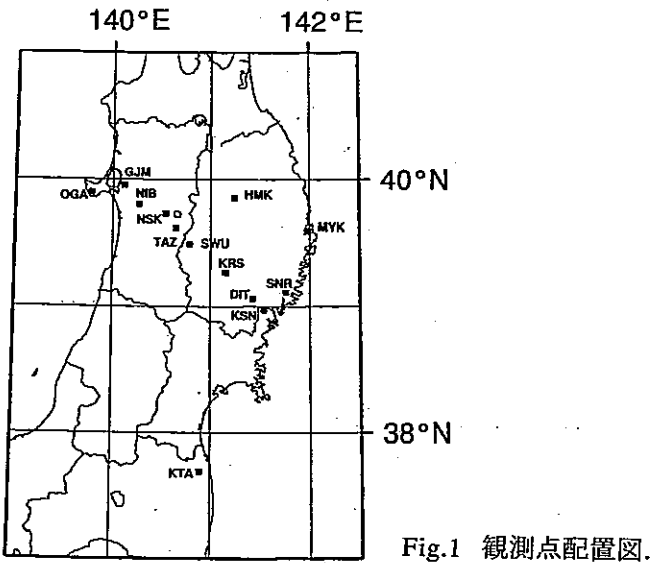


Fig.2 地殻変動観測所の石英管伸縮計および水管傾斜計により観測された歪，傾斜変化(1984年1月～1999年10月). EXEW, EXNS, GMNEは東西，南北方向の線歪とせん断歪，DILT, GMAXは面積歪，最大せん断歪，TLEW, TLNSは東西，南北の傾斜成分である. 各成分ともこの期間における平年値を求め，観測データから差し引いてある. 縦軸の1目盛あたりのスケールは成分名のわきの数値で表し，歪，傾斜各成分の単位はナノストレインまたはナノラジアンである. PRCPは日別降水量である. (a)男鹿(OGA)，(b)五城目(GJM)，(c)仁別(NIB)，(d)西木(NSK)，(e)田沢湖(TAZ).

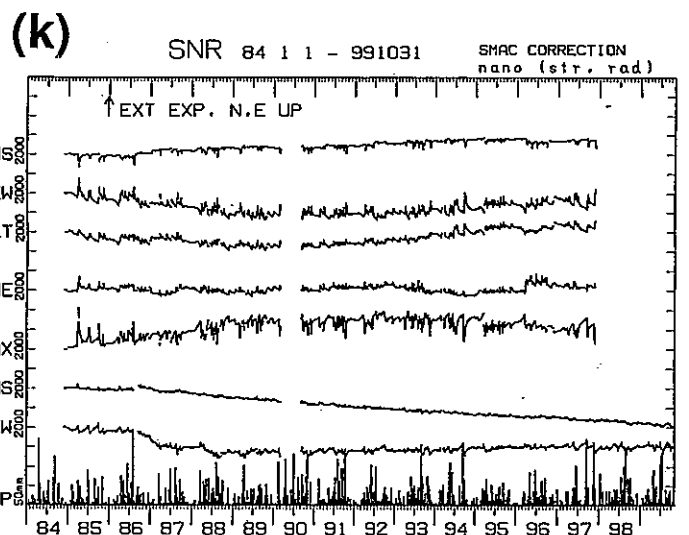
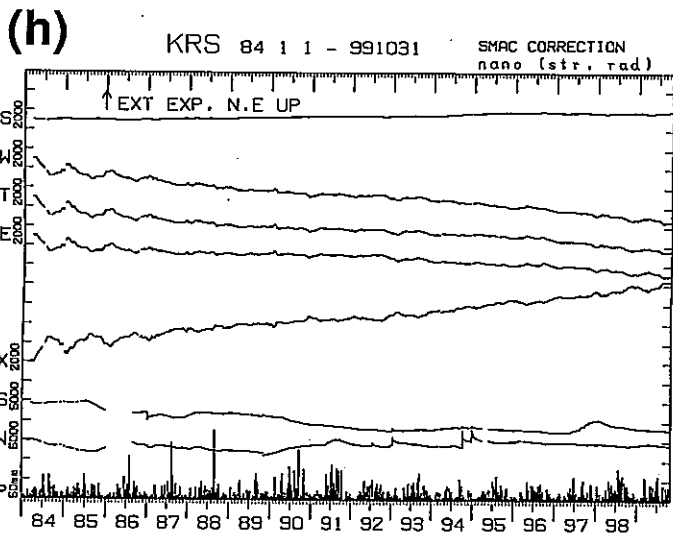
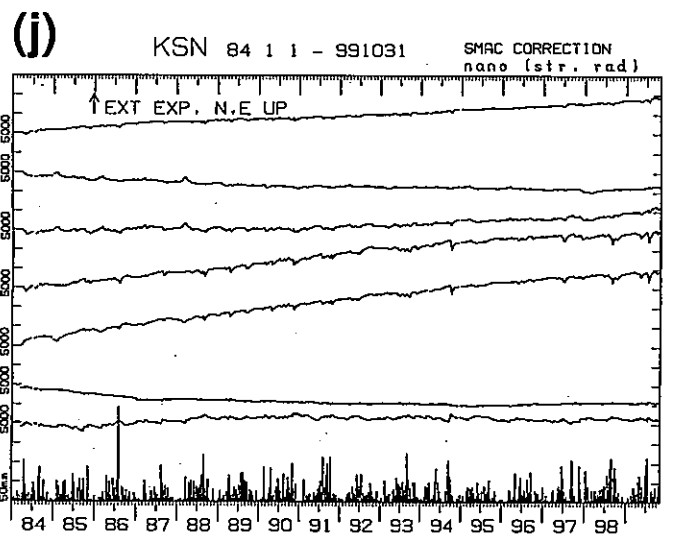
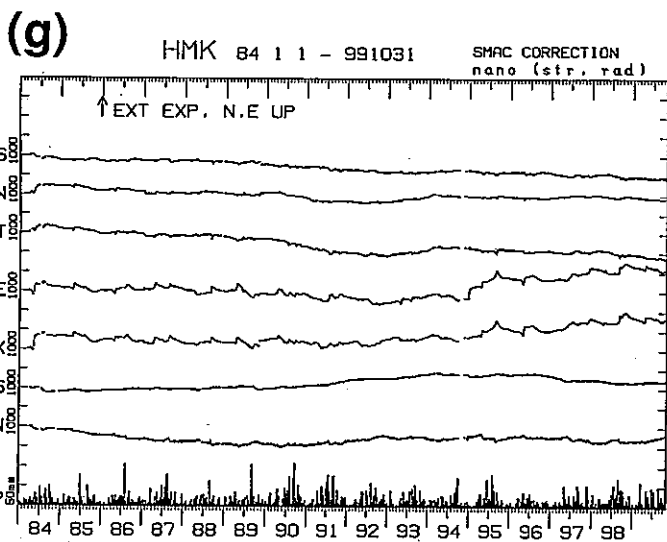
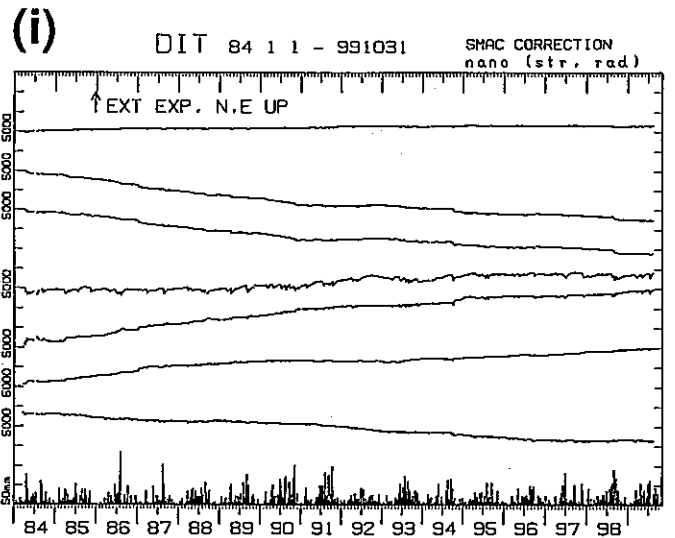
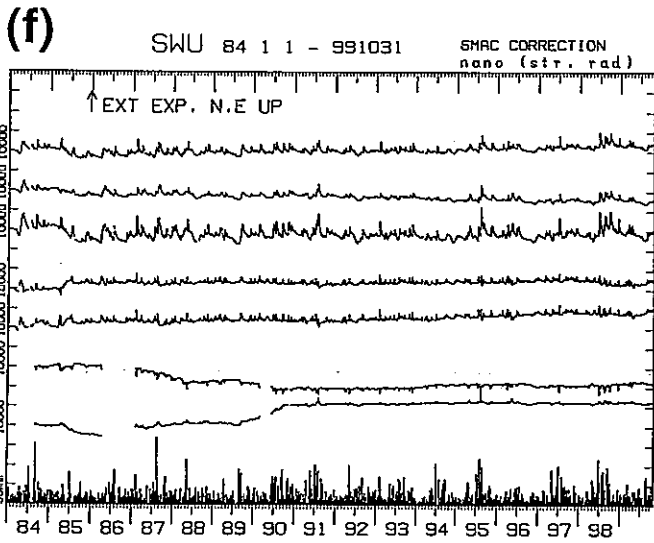


Fig.2 (つづき) (f) 沢内 (SWU), (g) 姫神 (HMK), (h) 黒沢尻 (KRS), (i) 大東 (DIT), (j) 気仙沼 (KSN), (k) 三陸 (SNR).

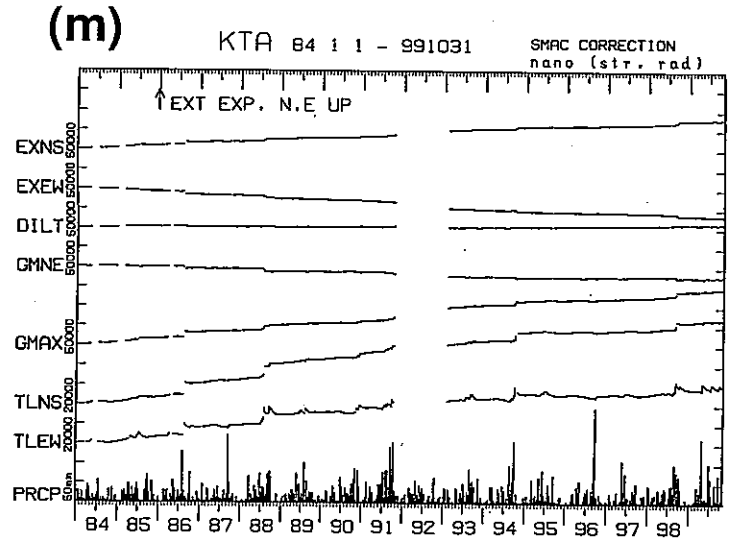
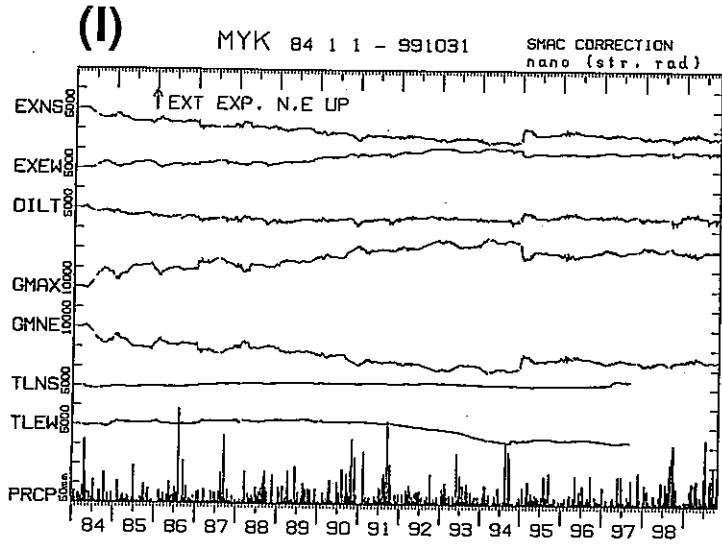


Fig.2 (つづき) (l) 宮古 (MYK), (m) 北阿武隈 (KTA).